

関連する『つまずきポイント』

- ①自分の考えをもつこと
- ④文章の要旨・主題をとらえること

読むこと領域

場面の移り変わりや登場人物の心情の変化をとらえ、自分の考えをまとめること

に関するつまずき解消に向けた系統的な取組

淡路市立大町小学校の実践

第6学年 複数の観点から作品を読み深め、自分の考えをまとめること

第5学年 登場人物の相互関係や心情、場面についての優れた叙述について、自分の考えをまとめること

第4学年 登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むこと

第3学年 場面の移り変わりに注意しながら、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むこと

第2学年 登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むこと

第1学年 場面の様子について、想像を広げながら読むこと

	身に付けさせたい力の系統	各段階におけるつまずき
高学年 (5・6年)	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、自分の考えを明確にすることができる。	作品のとらえ方が一方的になり、主題にせまる考えをもつことができない。
中学年 (3・4年)	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化について、叙述をもとに想像して読むことができる。	場面の移り変わりにともなって変化していく登場人物の気持ちを読み取ることができない。
低学年 (1・2年)	場面の様子について、大事な言葉を見つけながら、登場人物の言動を中心に想像を広げながら読むことができる。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像するための言葉を見つけることができない。

つまずき解消に向けた取組の視点

① 読みの系統表を作成し、発達段階に応じて系統的な指導を行う。

→前学年までの学習内容を継続的に活用させながら、学びを積み重ねていくことができるようになる。

② 読み解きの過程をとらえることができるワークシート作りを工夫する。

→「どこから、どう思い・考えて、そうわかったのか」を具体化することができるようになる。

→考えさせたい読みの観点に沿って、意見を交流し合うことができるようになる。

読むこと②

第1学年

場面の様子について、想像を広げながら読むこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

どの言葉が登場人物の気持ちを表しているのかを読み取ることが苦手である。

おじいさんが、かぶのたねを まきました。
「あまい あまい かぶになれ。 あまい かぶになれ。」
おおきな おおきな かぶになれ。」

登場人物の気持ちについて、読み取ったことを、音読に表すことができない。

実践の概要

単元名

音読発表会をしよう

『おおきなかぶ』 光村図書

目標 場面の様子や増えていく登場人物について、想像を広げながら読むことができる。

- 内容
- ・ あらすじをつかみ、場面分けをする。
 - ・ 8つの場面の様子や登場人物の気持ちを想像して音読する。
 - ・ 音読発表会をする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- ・ 文章中の言葉から登場人物の気持ちへと自分なりに結び付けることができるようになる。
- ・ 場面ごとの様子や人物の気持ちを想像し、声の大きさ、速さなどに気を付けて、音読にいかすことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

場面ごとに動作化をしながら、登場人物の会話をインタビュー形式で聞く活動を行う。

活動のねらい▶ 登場人物の会話や気持ちを想像する手助けにすることができる。

ここが
ポイント

動作化した直後、インタビュー形式でそれぞれの人物の会話や気持ちを聞いていくようにする。また、それぞれの場面の「けれども」「それでも」「やっぱり」「まだまだ」「なかなか」などの言語表現の違いやおもしろさも、動作と結び付けて味わうようにする。

授業の様子



さあ、ひっぱるよ。
うんとこしょ、
どっこいしょ。

おじいさん、
さっきと何か変わりましたか。

ねこさんが来てくれて、さっきよりは動いているんだけど、なかなかだなあ。もう少しなんだけど。

(期待される児童の姿)

それぞれの登場人物になって、かぶを引っ張った後、インタビュー形式で聞くことにより、自分の言動と登場人物の気持ちを結び付けることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

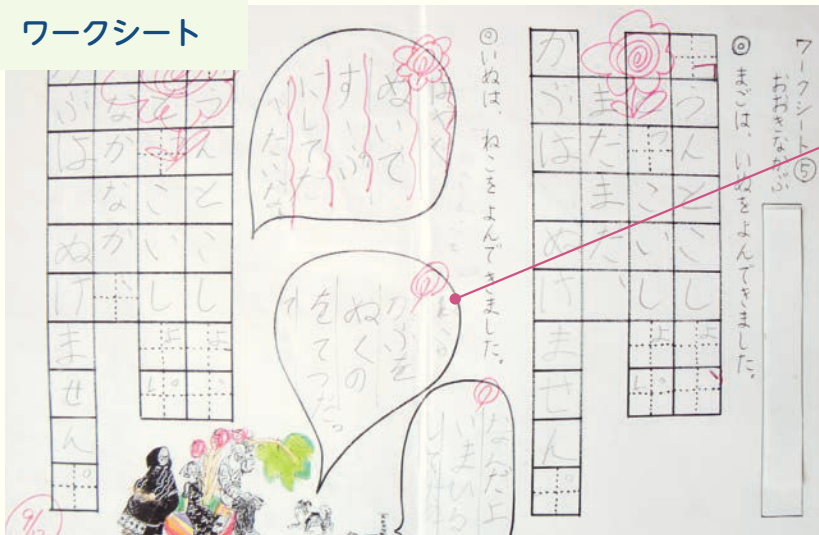
登場人物の会話や気持ちについて、ワークシートを用いて整理させる。

活動のねらい▶ 繰り返しの表現のおもしろさや登場人物の気持ちを読み取ることができる。

ここが
ポイント

- 挿し絵を利用した場面ごとのワークシートを作成する。
- 各場面での登場人物の会話を想像し、ワークシートに記述していき、場面ごとの読み取りを深めていくようにする。

ワークシート



ふき出しに書きこませることで、その人物の視点を持ちながら、自分の言葉で気持ちを書くことができる。

(期待される児童の姿)

動作化での体験を手助けに、場面ごとに人物の会話や気持ちを書くことで、気持ちの移り変わりを一人一人が考えることができる。

読むこと②

第2学年

登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。

「ひよとして、だれかが、きみに お手紙をくれるかもしれないだろう。」

「きょうは、だれかが、きみに お手紙くれるかもしれないよ。」

「だって、今、ぼく、お手紙をまっけているんだもの。」

「信じてほしい」「早く来てほしい」「本当のことを言いたい」といった、かえるくんの強くなっていく気持ちを読み取ることができない。

実践の概要

単元名

音読げきをしよう

『お手紙』 光村図書

目標 人物の気持ちを場面ごとに読み取り、全体を通して、気持ちがどのように変化したかを読むことができる

- 内容
- 登場人物の会話や行動、場面を整理する。
 - 叙述をもとにして、場面ごとに登場人物の気持ちを読み取る。
 - 読み取ったことを音読劇にする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- 動作化をすることで登場人物の視点をもつことができ、その人物に寄り添って気持ちを想像することができる。
- ワークシートを用いて、根拠を明らかにしながら登場人物の気持ちの変化を読み進めていくことができる。

第3学年

読むこと②

場面の移り変わりに注意しながら、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。

中心人物の思いを深く想像することができていない。

様子を表す言葉
『両手をつないで走り
ました。』

・ちいちゃんは、小さくて走る体力があまりないからです。

この場面で一番大事にする言葉が示されていない。

実践の概要

単元名

場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう

『ちいちゃんのかげおくり』 光村図書

目標 場面の移り変わりに注意しながら、人物の行動・情景・会話などの表現に着目して読む。

内容 学習の見通しをもつ。

- ・人物の行動・情景・会話等の表現から、場面ごとにちいちゃんの気持ちを考える。
- ・ちいちゃんに手紙を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- ・めあてを明確にすることで、人物の様子やその時の気持ち、まわりの情景に目を向け、読み進めることができる。
- ・ワークシートを用いることで、場面ごとの中心人物の気持ちの変化を読み取るができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

読み深めるためのめあてを、場面ごとにグループで話し合わせる。

活動のねらい▶ 児童に共通点を考えさせることで、児童が何を読めばよいのか（めあて）を明確にすることができる。

ここがポイント

- 教師が提示した「めあて」について、何について考えればよいかをグループで話し合う。
- 出された意見をもとに、全体で本時の「めあて」について話し合うことで、本時で考えることの具体的な見通しがもてるようにする。
- 具体的にになった「めあて」をもとに読み取りを行う。

授業の様子



たった一つのかけぼうしだから一人ぼっちでしているんだよ。

お父ちゃん
お母ちゃん
お兄ちゃんの声が聞こえてきているよ。

(期待される児童の姿)

根拠となる言葉とその理由を聞くことで、その場面の中心人物の気持ちをより深く想像しながら読み取ることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

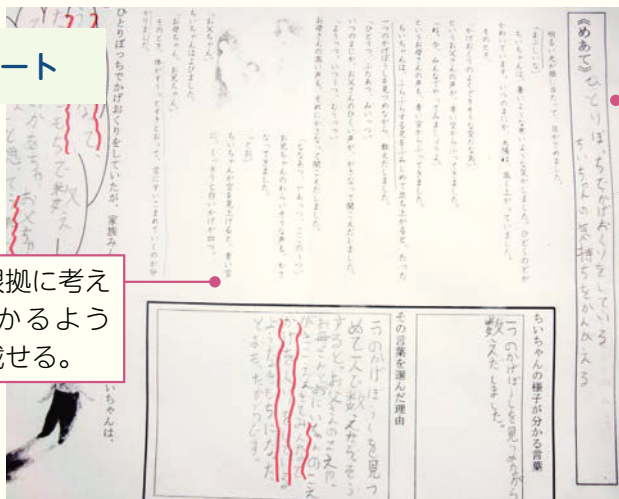
段落ごとに根拠となる言葉を書きとめられるワークシートを用いる。

活動のねらい▶ 「どの言葉」から「どんな気持ち」がわかるのかを明らかにしながら、中心人物の気持ちを読み取らせる。

ここがポイント

本文を載せたワークシートを利用して、段落ごとに根拠となる言葉を書きとめていくことで、本時の「めあて」（中心人物の気持ち）を常に意識しながら、その場面に置かれている心情を細かく読み深めるようにする。

ワークシート



どの言葉を根拠に考えたのかがわかるように、本文を載せる。

児童とともに設定した「めあて」を書きこむ。

(期待される児童の姿)

場面ごとに中心人物の気持ちに寄り添うことができる「めあて」にすることで、その気持ちを深く読み取ることができる。

第4学年

読むこと②

登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。

なぜ、このようないたづらをするのか、という部分まで踏みこめていない。

人間がこまるよう
ないたづらばかりす
るきつねです。

ごんはいたづらっ子
だったことが分かり
ました。

本文中の「いたづらばかりしました。」という表現にし
か注目できていない。

実践の概要

単元名

読んで考えたことを話し合おう

『ごんぎつね』 光村図書

目標 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。

- 内容**
- 感想を発表し合い、学習への見通しをもつ。
 - 場面ごとに読み、登場人物の関係や心情について考える。
 - ごんの心情をまとめた「ごん日記」を書き、紹介し合う。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- 自分の想像からではなく、文中の表現を根拠として人物の気持ちについて考えることができるようになる。
- ワークシートを用いることで、自分の考えを整理してまとめることができる。

第5学年

読むこと②

登場人物の相互関係や心情、場面についての優れた叙述について、自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。

～初読の感想から～

作品の世界を味わうことができない。

大造じいさんが
ガンをねらってい
て、がんがかわい
そうだなと思いま
した。
ガンのきずなが
書かれていると思
いました。

大造じいさんは
残雪をうたなかつ
たし、かん病をし
たのでとても心優
しい人なんだなあ
と思いました。

登場人物の相互の
関係が作品の大事
な部分であることを
とらえられてい
ない。

実践の概要

単元名

すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう

『大造じいさんとガン』光村図書

目標 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめるとともに、それを発表し合い、考えを深めることができる。

- 内容**
- ・初めの感想と意味調べをする。
 - ・場面ごとに人物の言動や情景描写から心情を読み取っていく。
 - ・物語の魅力を伝え合う。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- ・細かな表現も見逃さないようにしよう意識しながら、人物の心情を読み取ることができ、豊かな描写にも気付くことができる。
- ・人物のものの見方にふれ、人物の相互関係によって心情の変化が起きていることを知ることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

場面ごとに人物の心情がわかる描写を読み取らせる。

活動のねらい ▶ 各自で心情がわかる描写を探した後、グループで持ち寄ることで、考えが確かなものとなり、深まっていく。

ここがポイント

- 人物の行動と会話文から心情を読み取る。
〈例〉『うん。』と、うなっていました。』から、余裕がなくなった大造じいさんの悔しさが読み取れる。
- 情景描写から人物の心情を読み取る。
〈例〉「あかつきの光が…流れこんできました。」から、戦いへの意気込みが感じられる。

授業の様子



大造じいさんはこう思っているよ。そのことは、ここからわかるよ。

なるほどね。わたしは、ここにもそんな気持ちが出ていると思うな。

(期待される児童の姿)

- 相手に伝えるという必然性をもたせることで、一人学習の際に、根拠となる表現を探すことの意識が高まる。
- 同じ描写でも異なる心情が読み取れたり、異なる描写から似た心情が読み取れたりすることに気付き、各自の読みを深めることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

場面ごとに読み取りを整理して、ワークシートにまとめさせる。

活動のねらい ▶ 整理することで、全体交流の際に、場面ごとの読み取りを関係付けやすくなる。

ここがポイント

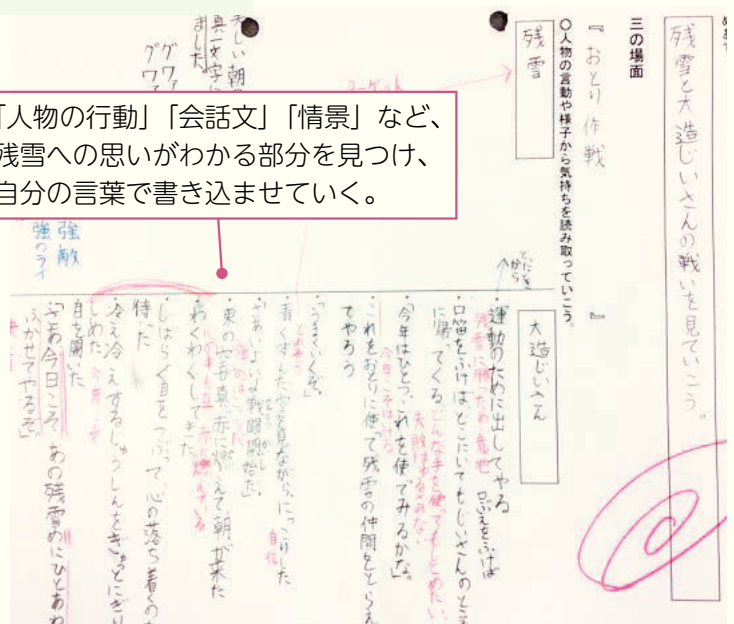
- 大造じいさんの残雪に対する思いを場面ごとに整理していく。
- 戦いを通して強まる大造じいさんの悔しさに共感し、自分の言葉で書き記していく。
- 残雪の行動を「仲間を助けた」「頭領らしい」と意味付けた大造じいさんの心情の変化も同時に読み取っていく。

(期待される児童の姿)

場面ごとに整理をすることで、場面と場面を比べることができ、人物の気持ちの強さや変化に気付くことができる。自分の言葉で心情を表すことができる。

ワークシート

「人物の行動」「会話文」「情景」など、残雪への思いがわかる部分を見つけ、自分の言葉で書き込ませていく。



読むこと②

第6学年

複数の観点から作品を読み深め、自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。

考えの根拠が示されていない。

谷川の生きものは、川の自然現象に負けないで生きていたいのだと思う。

かにも人間と同じ生物だと伝えたいと思う。なぜなら、かに目線の物語だから。

クラムボンの話をしているか、の兄弟が楽しそう、あわの大きさを比べている時も楽しそうだから、この文章は楽しい話だと思う。

印象に残った部分についてのみの反応であり、作品全体から読み取ったことではない。

作品の内容についての読み取りがない。

実践の概要

単元名

宮沢賢治が創り出す世界を味わおう

『やまなし』光村図書

目標 複数の読みの観点から、作品を読み深めることができる。

- 内容
- 既習の読みの観点を振り返り、全体で共有する。
 - 観点を意識しながら、「五月」と「十二月」を読み、作品に込められた作者の思いについて、自分の考えをまとめる。
 - 資料「イーハトーヴの夢」を読み、作者の願いを知る。
 - 他の作品へと読み広げる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- 読みの観点を整理・共有することで、叙述を根拠にしながら、一方的な読み方ではなく多面的に作品を読み進めることができるようになる。
- これまでの学びから得た読みの観点を再認識し、他の作品を読む際にも使うことができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

★深い学びにつながる実践

作品を読み深めるためには、どのような観点が大切であったかを想起・整理させる。

活動のねらい▶ 共有した観点を指標にして、個々に読み進めていくことができる。

ここがポイント

“物語を深く読むために大切だと思うこと”を問いかけ、出てきた意見を全体の場で、集約・整理をする。そして、整理された観点を、自分が読み進めるための手助けになるものとして、以降の一人学習で活用できるようにする。

授業の様子



前に“起承転結”を考えたことがあったな。

“情景”も気持ちを表しているから大切だったね。

今回は、場面の“対比”が使えるかな。

“事件”の前後で、中心人物が大きく変わっていたよ。

(期待される児童の姿)

既習の「読みの観点」をグループごとに振り返り、全体の場で交流・確認し、読み深めるために必要な観点を整理することで、見通しをもった課題解決を図ることができ、深い学びにつなげることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

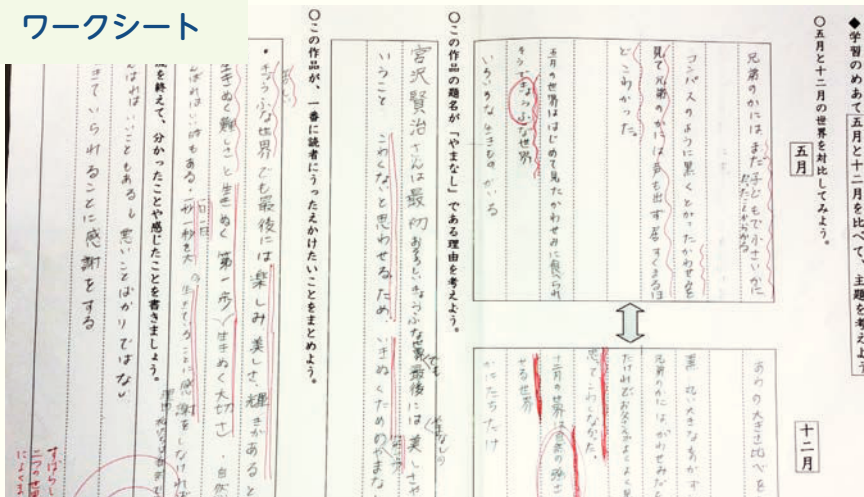
観点ごとに読み取りを整理して、ワークシートにまとめさせる。

活動のねらい▶ 整理することで、全体交流の際に、観点ごとの読み取りを関係付けやすくなる。

ここがポイント

これまで培ってきた読みの視点を活用しながら、“題名”“対比”“人物の行動変化”などの観点を整理したワークシートを作成し、個々に考えをまとめる。そして、複数の観点到共通して表れていることから、主題にせまっていく。全体交流の中では、自分の考えを改めていく過程がわかるように、書き加えていくようにする。そうすることで、自分の考えの根拠を自分で振り返ることができるようにする。

ワークシート



(期待される児童の姿)

観点ごとに考えをまとめるため、何に注目すればよいのかが明確になる。また、交流の際には、ある観点で見られることが他の観点でも見られるといった関係性をとらえることができる。